

1. はじめに

2021年10月から2022年3月までの半年間を英国のレスター大学にて、金沢工業大学の交換留学生として学習させて頂く。10月からの授業開始と10日間の隔離期間を考慮して9月の下旬に英国に到着し、約1カ月の学習面や生活面について報告する。

2. 学習面

クラスはIELTSのスコアによって分類される。IELTS4.0がモジュールAであり、0.5刻みにB,C,Dと上がっていく。IELTSのスコアが5.0なのでモジュールCのクラスと、後にモジュールDのクラスを履修する予定である。各モジュールは10週設けられており、最終週は試験となっている。

モジュールCは8名の学生が所属しており、国籍は様々である。基本的にはテキストを進めるような形で、グループディスカッションなど自分の意見を発言する機会が多い形態である。月曜日から木曜日はそのような形だが、金曜日は最終週のポスタープレゼンテーションの準備を進めている。モジュールCは10週の内4週が終了した。1, 2週目は先生の発言が理解出来ずに、質問することも多々あったが、その質問もどのように質問すればよいのかと戸惑うことがあり、文法や単語を知っていてもアウトプットの練習が如何に大事であるかを痛感した。現在は先生が言っている内容は以前よりも理解することが出来るが、授業のリスニング問題や日常会話などで聞き取れない、理解出来ない状況が多々あるので、先生の発言は英語を母国語にしない人に向けた、噛み砕いた言い方なのであろう。

日本の授業と比べて、授業中に質問する学生が多く、授業が質問回答によって中断することも多々あるが、疑問点を瞬時に理解出来るので、授業の理解度は高くなる。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:30-11:00	reading	reading	listening	speaking	project
11:30-13:00	reading	vocabulary	listening	speaking	project
14:00-16:00	writing	writing		tutorial	

図1 時間割

3. 生活面

何度目かの海外ということもあり、生活面に関しては特に不安な点はなかったが、この1か月はトラブルの連続だった。

9月22日(水)の深夜便で日本を出発して9月23日(木)にフランクフルト経由で英国に到着する予定だったが、提出書類に不備がありフランクフルトから英国への飛行機に乗ることが出来なかった。飛行機を目の前にしての宣告はこれからの留学生生活を失意のどん底に落とすかの様だった。急遽Free-WiFiの場所を探して、パソコンを開いて提出書類を一から作成した。また、同時に航空会社のカスタマーセンターに行き、事情を話して航空券を手配する必要があった。しかし、教えて頂いた場所のカスタマーセンターには職員がおらず、同じように困惑している利用客が数人いた。日

本では有り得ないことに戸惑いながらも、海外に来たなど実感した。その後なんとか、違うカスタマーセンターを発見し、航空券も手配することが出来た。フランクフルト(ドイツ)発バーミンガム(英国)着は便が少なく、偶然その日はもう一便あったが、仮にその日の航空券を手配できなければドイツでの入国も出来ずに、空港で一泊することになっていた。その際に日本は祝祭日にも関わらず、留学支援課の藤村さんが対応して下さり、藤村さんのおかげで事なきを得た。

大学の宿舎には昼頃の到着予定が夜 10 時過ぎになり、当日中に着いて良かったと安堵している最中、またトラブルが発生した。予定宿舎の名簿に名前が見当たらないのである。1 時間程受付の職員が対応して下さったが、その日はタクシーを利用して違う宿舎に泊まることとなった。翌日に受付の職員に移動したい趣旨を伝えるがなかなか対応して下さらず、それでも何度も伝えるとなんとか予定通りの部屋に移動することが出来た。協議している時は不機嫌そうな感じだったが、移動が決まると、何故か自分のことのように喜んでくれた。日本では凶々しいと思われるような行動ではあるが、海外では凶々しいぐらいでないに対応してくれないということを身をもって体感した。

その他にも日本の生活に慣れている身からすると、理解不能なことも多々あったが、1 ヶ月が経過するとそのような出来事は笑い話に思えるようになった。残りの英国生活もトラブルの連続だろうが、いつかの自分が笑い話に思える日が来ると思うと、多少のトラブルを経験しても良いかもと思える。

沢山のトラブルを経験した一方で、英国ならではの経験もすることが出来た。大学の所在地であるレスターシティは、サッカーのチームが有名であり、かつて岡崎慎司選手が所属している時に、プレミアリーグで優勝したチームとしても有名である。先日、レスターシティ vs ブライトンがあり、観戦することが出来た。海外ならではの熱気があり、レスターシティを応援するという一体感は最高だった。その前には 크리스チアーノロナウド率いるマンチェスターユナイテッドとの一戦がレスターで行われたが、チケットは案の定売り切れで購入することが出来なかった。留学中にマンチェスターユナイテッドなどの試合を見れたら幸いである。

宿舎はキッチンで 5 人で共有し、各自の部屋にシャワールームやトイレが完備されている。キッチンは男性のみなので滅多に使われることはない。週末には隣人とレストランなどに行って楽しんだ。

4. おわりに

コロナ禍の留学によって、通常よりも準備するものが多く、かつそれに伴い留学支援課をはじめとした多くの方々の協力を必要とした。留学生として身を置ける環境に感謝したい。

留学期間は 6 ヶ月であり、時間は有限であるので、多くの経験と失敗をしていきたい。また、英国では日本よりもマスクをする文化やソーシャルディスタンスの概念が薄く、自己防衛が大事である。街中や授業中などマスクをしていない人々を見ると、未だに恐怖心を覚えるが、文化に左右されず、自分が正しいと思う行動をしていく。

以上で 10 月分の月例報告を終了する。